クボタテーラー

取扱説明書

TD700E(R)

J-2753

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

ディーゼル燃料給油

ギヤーオイル給油

燃料ゲージ **“下限”**

燃料ゲージ **“上限”**

専門用語の説明

PTO ・・・・・・動力取出軸

デコンプ ・・・・減圧装置

フルカット ・・・残耕処理機構（ロータリ）

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買上げの製品が秀れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。なお，製品の仕様変更などにより，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げいただいた購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

KK231-6415-7

■注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠危険：注意事項を守らないと，死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠警告：注意事項を守らないと，死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠注意：注意事項を守らないと，けがを負うおそれのあるものを示します。

重要：注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補足：その他，使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は，農業機械であり，農作業以外では使ってはいけません。
夜間作業はしないでください。

目　次

▲ 安全に作業するために

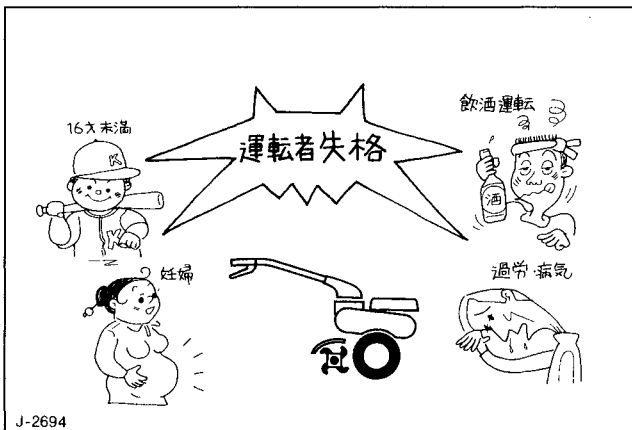
必ず読んでください。

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で▲危険・▲警告・▲注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

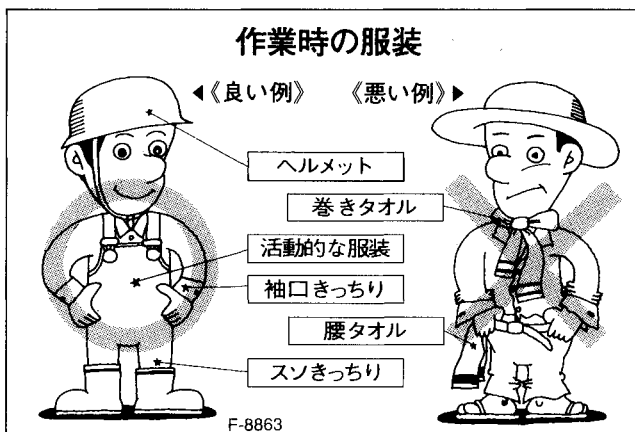
1．運転する前に

機械の運転操作，特に主クラッチ**“切”**はすばやくできるよう，よく練習し，充分になれてから作業してください。

次の項目に該当する場合は機械を使用しないでください。

＊本書及びラベルの内容が理解できない人
＊視力不足等のため表示内容が読めない人
＊飲酒時や体調が悪い時また妊娠中の人
＊16才未満の人
＊ハンドルを操縦する体力に自信のない方

J-2694

■使用する人の服装は

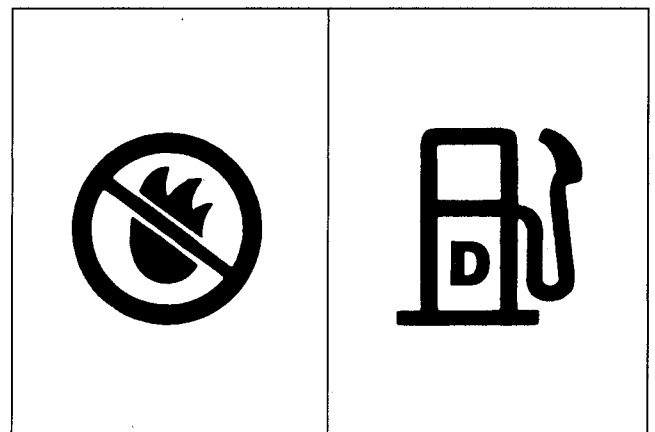
＊回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になる，だぶついた服，腰タオル等はやめてください。
＊ヘルメット，安全靴，保護メガネや手袋などを必要により着用してください。

F-8863

■他人に貸すときは

事前に運転のしかたを教え，**“取扱説明書”**を必ず読んでもらってください。

F-8822

■給油・注油するとき【火気厳禁】

燃料の給油・補給時は必ずエンジンを停止し，規定量以上入れないでください。こぼれた燃料はふきとり，煙草を吸ったり火気をちかづけないでください。エンジン回転中やエンジンが熱い間は火災の恐れがあるので給油・補給はしないでください。

■周囲への注意

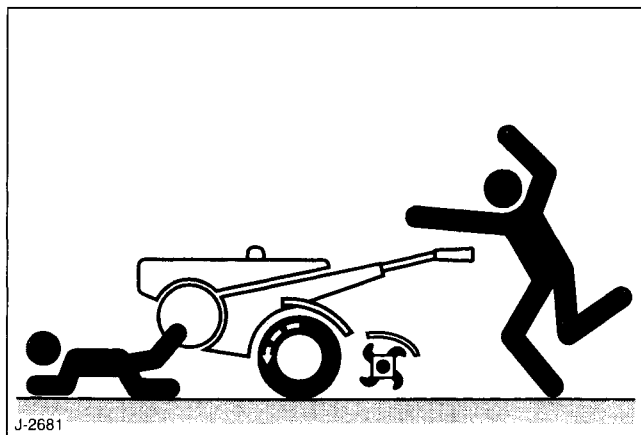
＊子供，ペットを近づけないでください。
＊見物人を近くに寄せないでください。
＊共同作業者がいる時は，互いに注意してください。

安全に作業するために

2. 始動するとき

■エンジンをまわすとき

＊必ず本機，ロータリ（作業機）の主クラッチレバーを **“切り”** 変速レバーは **“中立”** にして，付近に人（特に子供）をちかづけないでください。もし主クラッチや変速が入っていると車体や爪軸が急に動いて事故になる恐れがあります。

J-2681

■排気ガスに注意

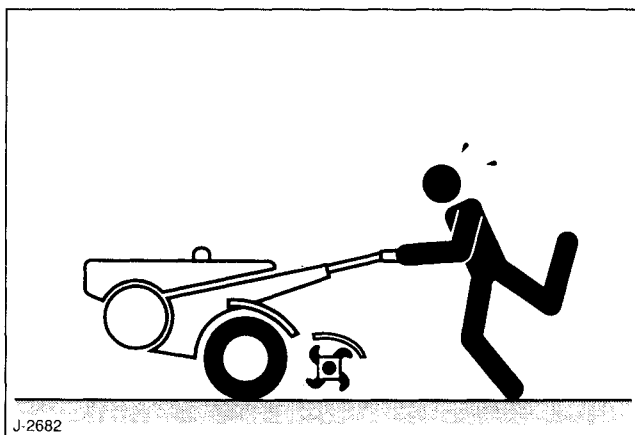
排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがある換気の悪い所（ハウス，車庫等）では使用しないでください。

F-8842

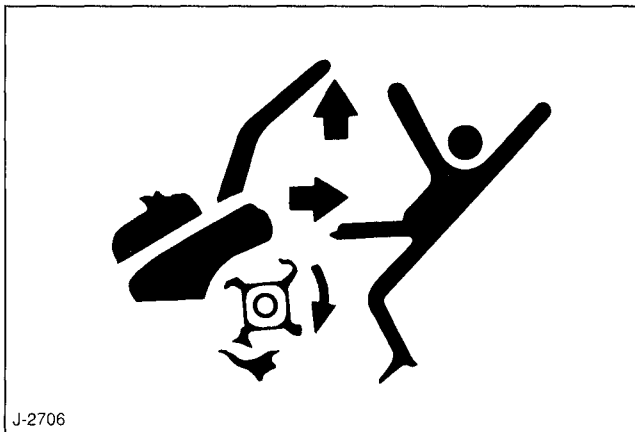
3. 移動，作業するとき

■発進するとき

車速の最低速で主クラッチレバーの **“入”** はゆっくり，**“切”** は素早くの操作を習熟した上で使用してください。
小走りになるようなスピードを出したり，急発進，急旋回はしないでください。

J-2682

■ロータ装着時後進は禁止

ハンドルが跳ね上がり回転する爪に巻き込まれる恐れがあるので **“後進”** に変速しないでください。

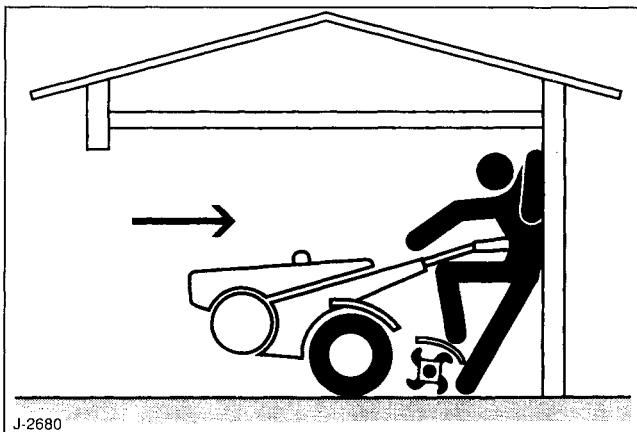
J-2706

■移動するとき

移動の際は，必ずロータリの回転を止めてください。

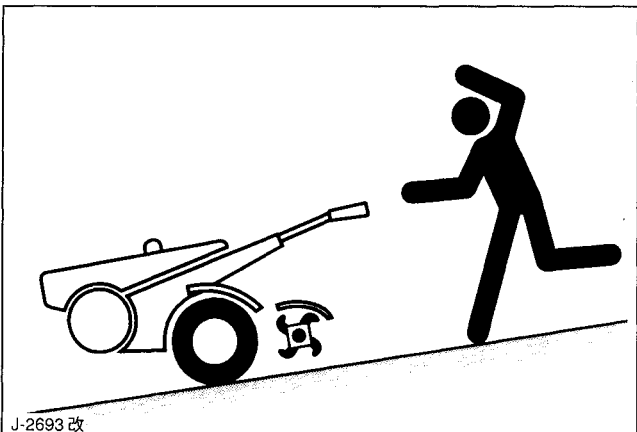
J-2708

■ハウス，車庫等での移動

後方の壁，支柱，天井など障害物にはさまれる恐れがありますので遅い車速で，また，主クラッチレバーが素早く操作できる体勢で，後進してください。

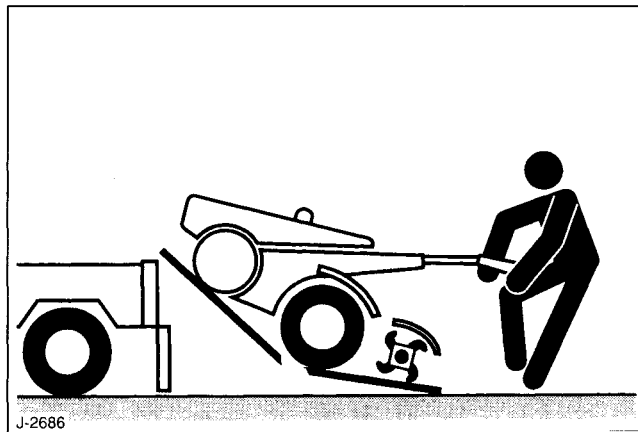
J-2680

■坂道を移動するとき

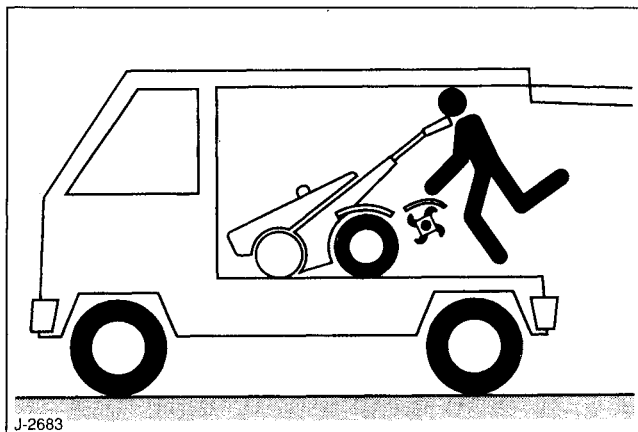
坂道，ほ場の出入り，畦の乗り越え，積込み・積降ろしの際に，主クラッチ，操向クラッチを**“切”**ったり，変速を**“中立”**にすると，機体がおもわぬ方向に進み危険ですので絶対に行なわないでください。

J-2693改

■積み・降ろしするとき

アユミ板は丈夫ですべり止めのあるものを使用し，確実に固定してください。

足元に注意し，車速は最低速で，上りは**“前進”**下りは**“後進”**で行い，途中で主クラッチ，操向クラッチを切ったり，変速操作をしないでください。

J-2686

車などで運搬するときは，必ず荷台に天井がない車を使用してください。

J-2683

安全に作業するために

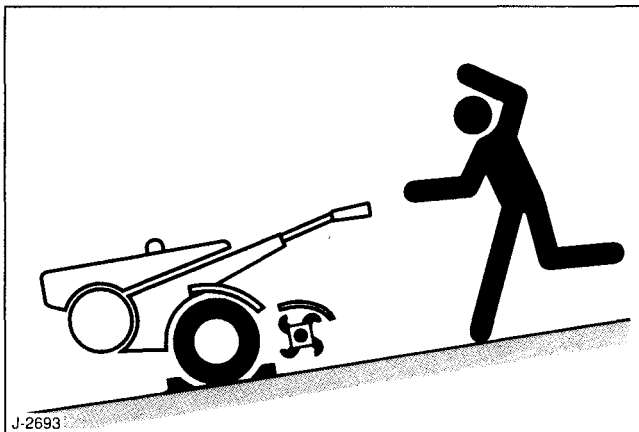
■回転している爪に注意

ハンドル部を持ち上げ旋回する時，足下および周囲に充分注意しないと回転する爪に巻き込まれる恐れがあります。

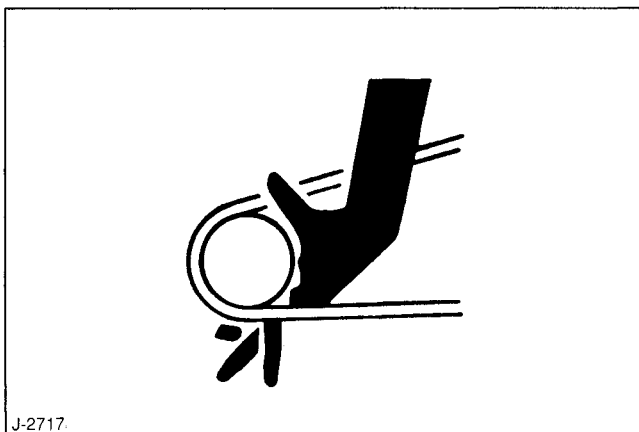
J-2708

■機体から離れるとき

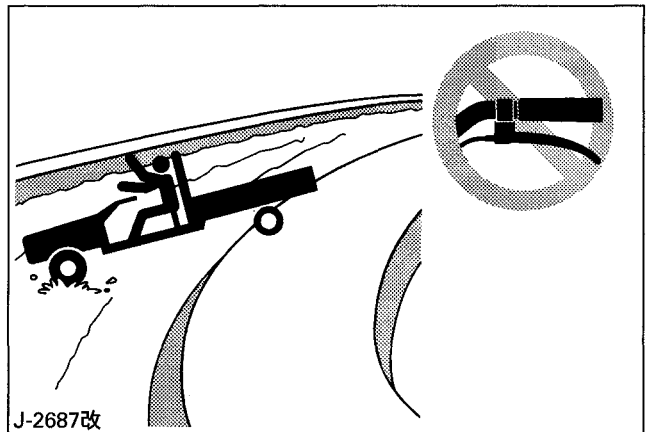
エンジンは必ず停止させ平坦で安定した場所に駐停車します。
やむなく傾斜地に止めるときは車止めをしてください。

J-2693

■PTO軸を使用するとき

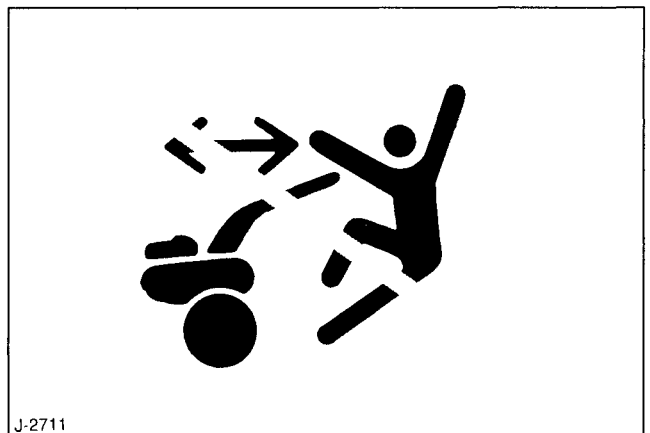
回転軸に巻き込まれる恐れがあるのでまわりにカバーや囲いをしてください。使用しない時はカバーを組み付けてください。

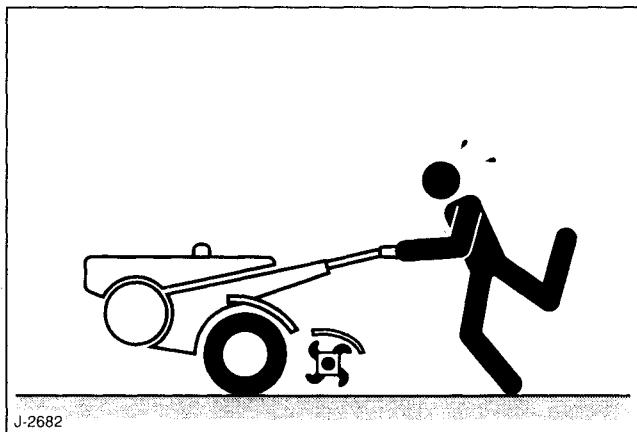
J-2717

■トレーラ走行するとき

トレーラを取付けたこのテーラーは道路運送車両法の小型特殊自動車の保安基準に適合しません。そのため，公道を走行すると道路運送車両法に違反します。
公道以外を移動するときは
＊トレーラには運転者のほかには乗車させないでください。
＊見通しの悪い所（交差点，踏切）では一旦停止して降りて左右を確認してください。
＊トレーラ走行時，操向クラッチを使って旋回すると，思わぬ方向に曲がり転倒のおそれがありますので，操向クラッチは握らないでください。必ずハンドル操作で旋回してください。

J-2687改

■耕うん作業時

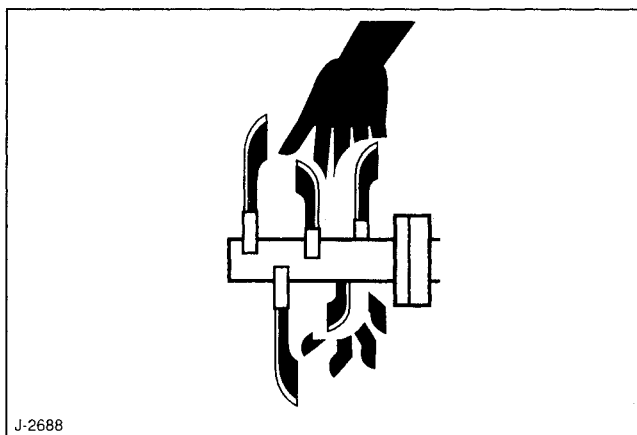
車軸（ロータ），爪軸（ロータリ）作業では機体が思わぬ方向に飛び出し転倒や人身事故の恐れがありますので，主クラッチは素早く切ってください。作業前に，ほ場の状態をよく確認して，石・材木・針金・空カン・空ビン等を取除いてください。

J-2711

■ほ場が硬いとき

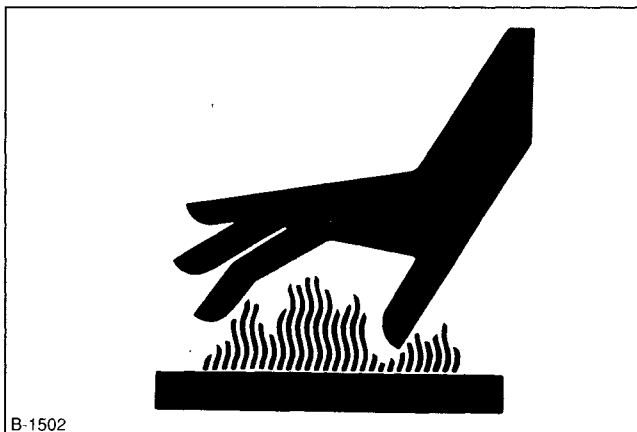
硬いほ場では車速を遅い目にして，耕深も浅い目で作業を行なってください。

J-2682

4．作業が終わった時

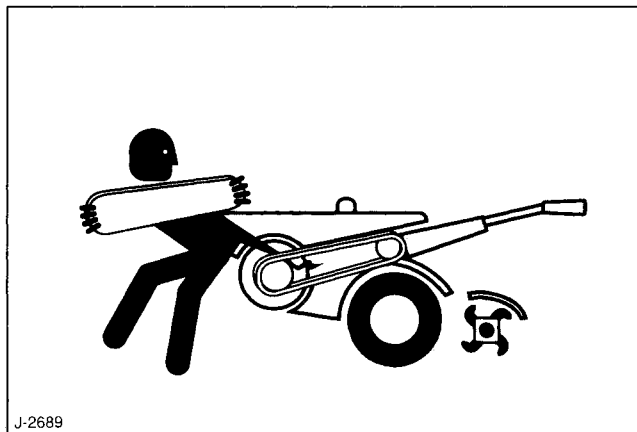
■掃除をするとき

車軸（ロータ）爪軸（ロータリ）等に巻き付いた草，ワラ，泥土等を取り除く時は必ずエンジンを停止してください。

J-2688

5．点検，整備をするとき

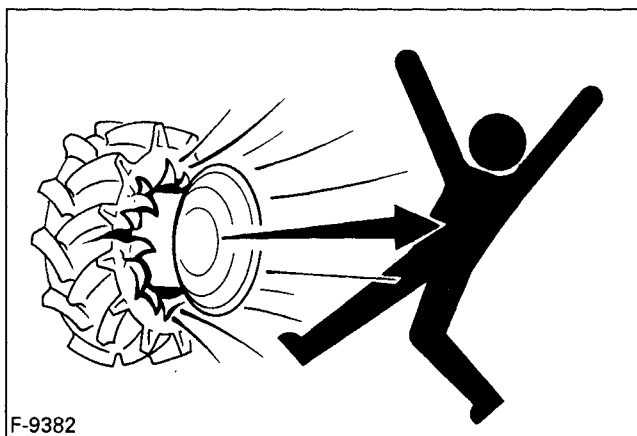
点検，整備，アタッチメントの脱着などは機械が転倒しない平坦な所にスタンドを立てエンジンを止め，高温部が冷めてから行なってください。

B-1502

■カバー類は必ずつける

ベルトカバーなどの防護装置を取り外す場合は必ずエンジンを停止して，作業後は取り外したカバー類は元通り組み付けてください。又作業機（ロータリ）を外した時はPTO軸にカバーをつけてください。

J-2689

点検，整備，アタッチメントの脱着などは機械が転倒しない平坦な所にスタンドを立てエンジンを止め，高温部が冷めてから行なってください。

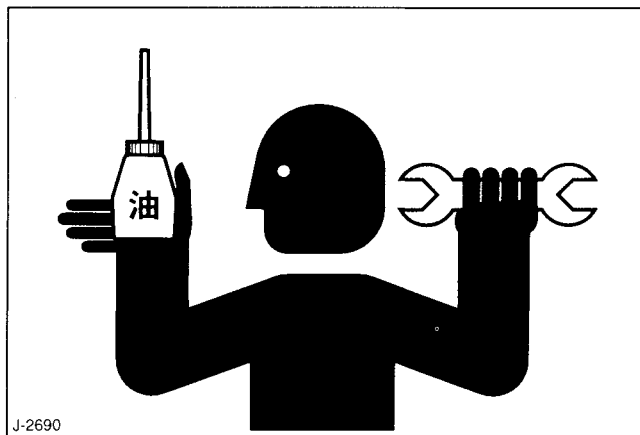
■タイヤの整備

タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を，必ず守ってください。
空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり，死傷事故を引き起こす原因になります。
タイヤに傷があり，その傷がコード(糸)に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。
(特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。)

F-9382

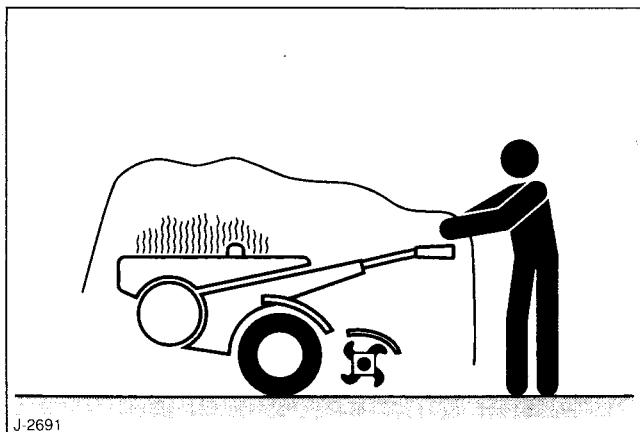
安全に作業するために

■1年毎の定期点検を

機械の整備不良による傷害事故などを未然に防止するため1年毎に定期点検，整備を受け特に燃料パイプは2年毎に交換して安全に作業出来るようにしてください。

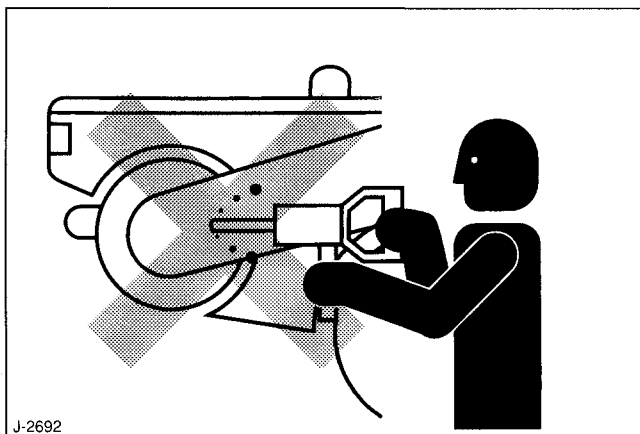
J-2690

■格納するとき

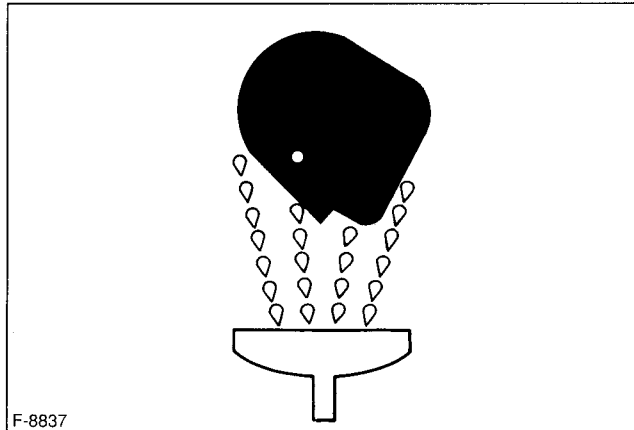
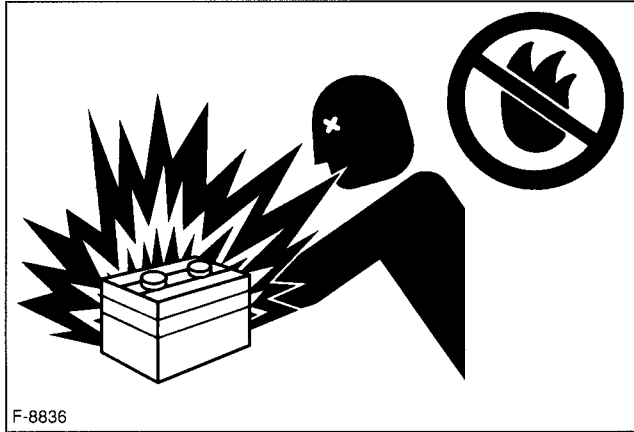
機体に保管用カバーをかけるときは火災予防のため高温部が冷めてから行なってください。

J-2691

■機械の改造禁止

機械を改造しないでください。改造すると機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながる恐れがあります。

J-2692

■バッテリ点検するとき

バッテリ液は希硫酸なので扱いには注意し，体や衣服に付けないようにしてください。もし目や体に付着した場合はすぐ水で洗って，すみやかに医師の診療を受けてください。

F-8837

バッテリは充電中可燃性ガスを発生し爆発の危険性がありますので，タバコをすったり火気を近づけないでください。

F-8836

バッテリは液面がLOWER(最低液面線)以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐにUPPER LEVEL(上限)とLOWER LEVEL(下限)の間に補水してください。(補水可能なバッテリ)

6. ▲表示ラベルと貼付位置

①品番　KK221-4745-1

▲ 注　意

前進6速はたいへん早いので危険です。トレーラ走行時以外は必ず高速ケンセイボルトを「入」の位置に確実に固定すること。

高速ケンセイボルト

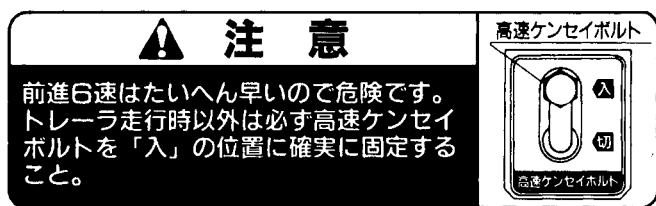
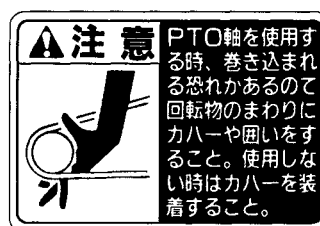
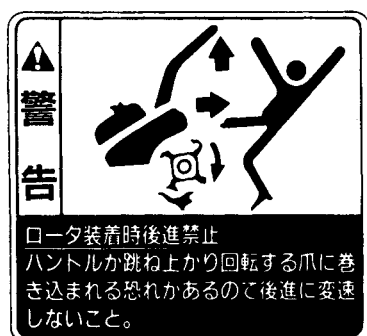
②品番　61592-4812-1

▲注 意

PTO軸を使用する時、巻き込まれる恐れがあるので回転物のまわりにカバーや囲いをすること。使用しない時はカバーを装着すること。

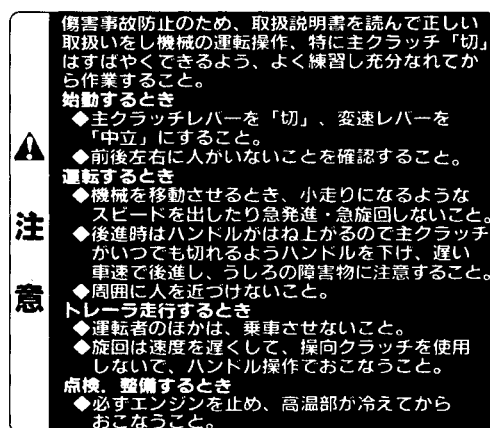
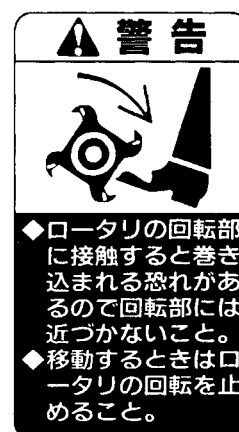
③品番　61592-4833-1

▲ 警 告

ロータ装着時後進禁止
ハンドルが跳ね上がり回転する爪に巻き込まれる恐れがあるので後進に変速しないこと。

④品番　64071-4822-1

⑥品番　64071-4881-1

▲ 警 告

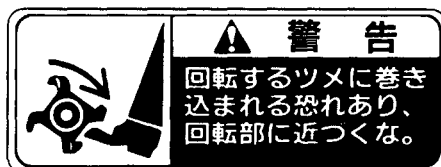
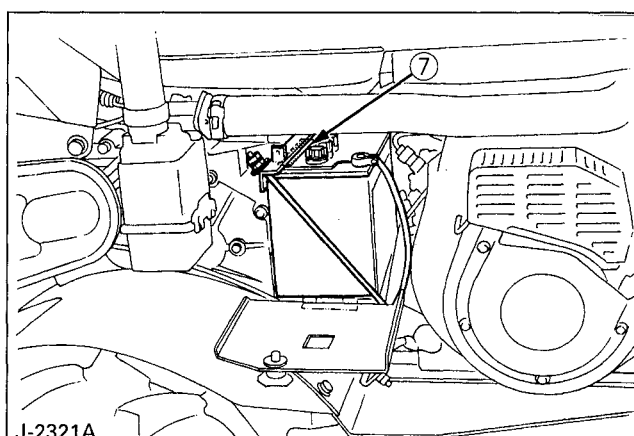
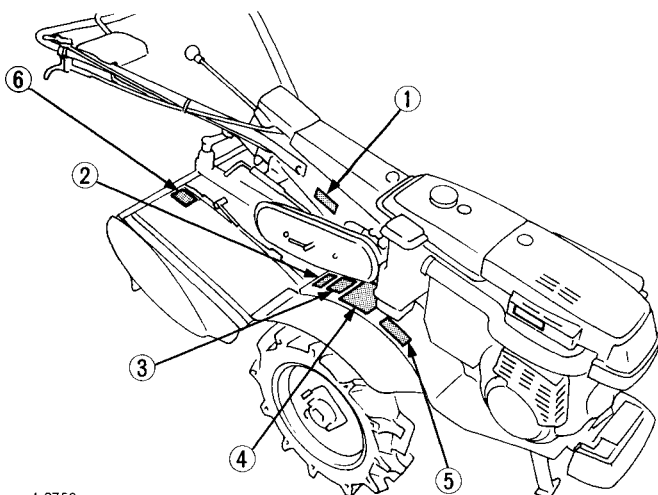
◆ロータリの回転部に接触すると巻き込まれる恐れがあるので回転部には近づかないこと。
◆移動するときはロータリの回転を止めること。

⑤品番　60802-4828-1

⑦品番　6A320-5559-1

公称電圧12V

●水素ガス発生, 取扱いを誤ると引火爆発の恐れあり
•工具等でショートやスパークをさせない •充電は風通しのよい所で行う
•ブースターケーブルの使用は取扱説明書に従う
●バッテリ液(硫酸)で失明ややけどの恐れあり
液がついたらすぐに多量の水で洗い, 目の場合は医師の治療を受ける
●爆発の恐れあり, 液面はLOWER以下で使用しない
●液漏れの恐れあり, UPPER以上に補水しない

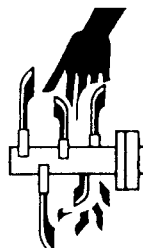
J-2756

J-2321A

安全に作業するために　必ず読んでください。

①品番　KK221-4750-1

▲ 注　意

巻き込まれによる事故を防止するために
◆運転時は、ベルトカバーなどの防護装置を必ず装着すること。
◆PTO軸を使用する場合は、回転物のまわりにカバーや囲いをすること。使用しない場合は、付属のカバーを装着すること。

③品番　11151-8741-2

②品番　60932-4825-1

⑤品番　KK226-3564-1

④品番　64071-4841-1

7. ▲表示ラベルの手入れ

(1)ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
　もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
(2)高圧洗浄機で洗車すると， 高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
(3)破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
(4)新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。
(5)ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

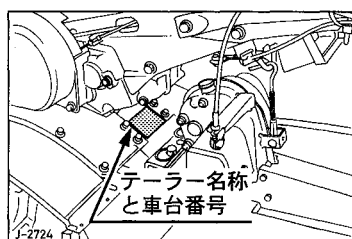
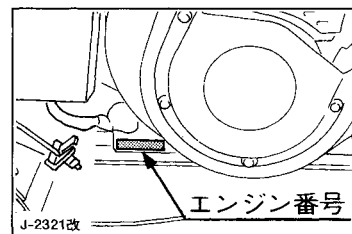
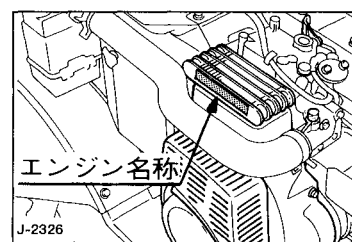
この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先に，それぞれ**"ご相談窓口"**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。

その際　(1)テーラー名称と車台番号
　　　　(2)エンジン名称とエンジン番号

を併せてご連絡ください。

なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警　告

＊機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

◆安全鑑定適合番号
　クボタTD700　…　21064

■補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期限)は製造打ち切り後９年と致します。

ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

注　意

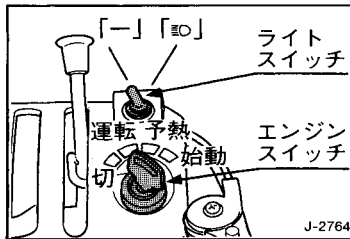
＊公道でのトレーラ走行はできません。
このテーラーは道路運送車両法の小型特殊自動車の保安基準に適合していない為，公道でのトレーラ走行はできません。

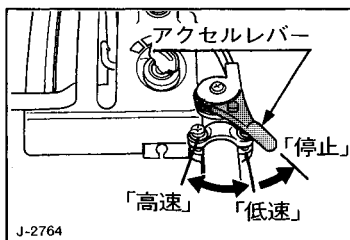
もうおぼえられましたか？ ●テーラー各部の名称と装置の取扱い

エンジンスイッチ

●エンジンの始動に用います。

ライトスイッチ

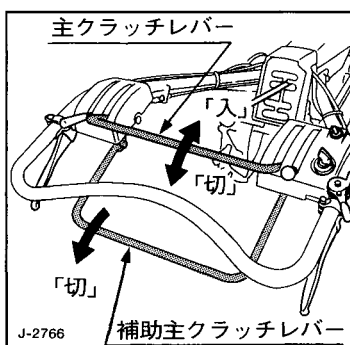
●ライトの点灯に用います。
≣D…ライト点灯位置（エンジン運転時）

アクセルレバー

●エンジンの回転数を調整します。
●レバーを**“停止”**位置にすると，エンジンが停止します。

主クラッチレバー

 注 意

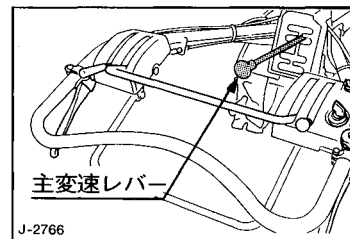
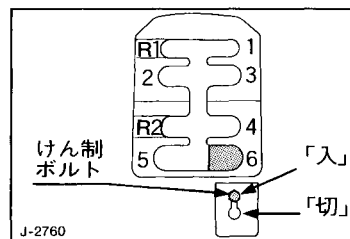
＊主クラッチの接続はゆっくり行なってください。（特にバック時）

補助主クラッチレバー

●レバーを下側に押すと主クラッチが切れます。

主変速レバー

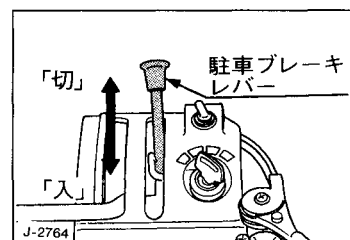
 注 意

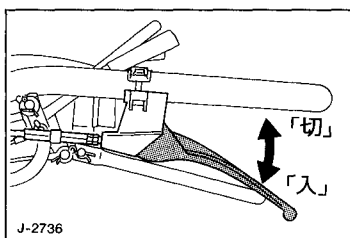
＊変速操作は主クラッチを“切”ってから行なってください。
＊走行中は変速しないこと。
＊前進6速はたいへん速いので危険です。歩行作業時（トレーラ）走行時以外）は必ず高速けん制ボルトを“入”の位置に固定してください。

●前進6段，後進2段に変速できます。
前進6速を使用（トレーラ走行）する時は，けん制ボルトをゆるめ，**“切”**の位置へ切換えてください。
使用後は必ず**“入”**位置へ戻しておいてください。
●ロータリクラッチレバーが**“入”**の時，主変速レバーは**“後進”**には入りません。

駐車ブレーキレバー

 注 意

＊駐車ブレーキ作動中は操向クラッチは使用しないでください。ブレーキが作動しません。

●レバーを手前に引くとブレーキがききます。
●レバーを前方に押すとブレーキが解除されます。

操向クラッチレバー(右)
操向クラッチレバー(左)

●左側のレバーを握る……左に旋回します。
●右側のレバーを握る……右に旋回します。

燃料キャップ
●ディーゼル軽油を使用します。

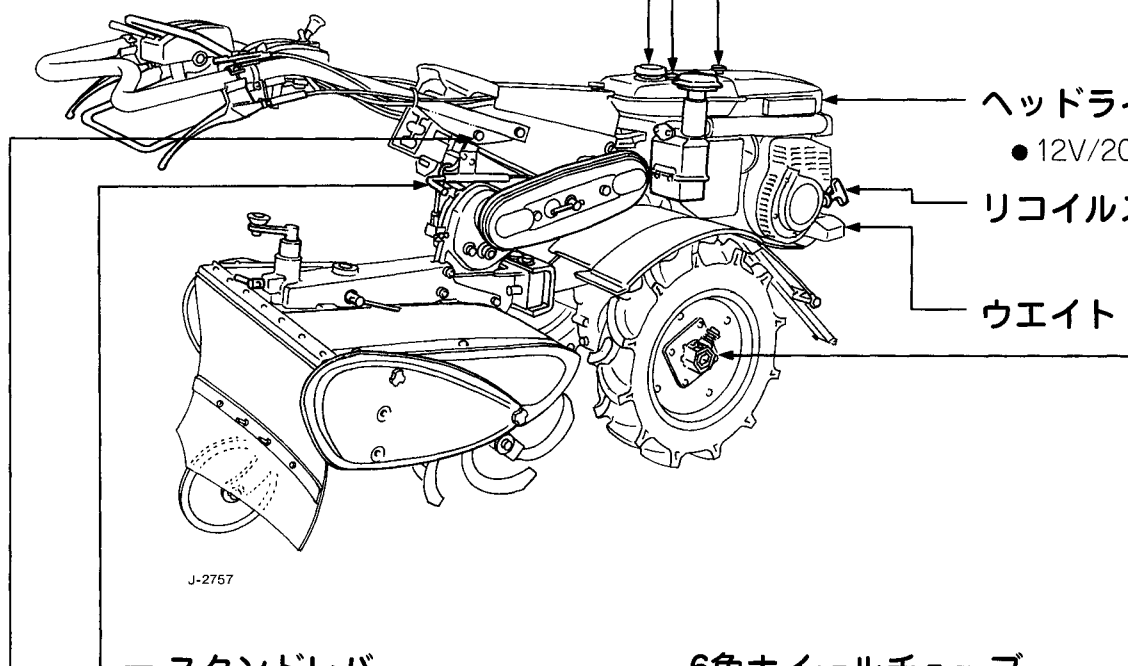
＊規定量(赤ゲージ)以上入れないでください。

燃料ゲージ

ボンネットノブ
●エンジンの点検時開けます。

ヘッドライト
● 12V/20W

リコイルスタータ

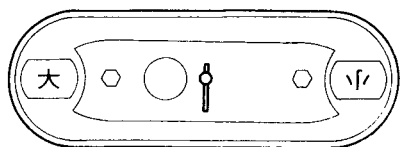
ウエイト

スタンドレバー
●手前に引いて横に回すとスタンドが引込みます。

6角ホイールチューブ
● 320㎜～620㎜まで輪距が変えられます。

ハンドル高さ調整
●ボルト位置を変えることにより、3段階に調整できます。

もうおぼえられましたか？ ●ロータリ各部の名称と装置の取扱い

副チェーンケース

- 前後の入換えにより，耕うん爪の回転が2段階に変えられます。
- ラベルの文字が読めるように取付けてください。
  小…爪回転が早くなり土塊が小さくなります。
  大…爪回転が遅くなり土塊が大きくなります。

J-2316

副チェーンケース固定ボルト

J-2757

ロータリ固定ナット

- ロータリを取外すときゆるめます。
  （12ページ参照）

後輪上下ハンドル

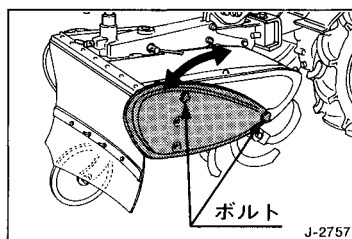
- 右に回す……耕うんが深くなります。
- 左に回す……耕うんが浅くなります。

後輪外管締付けハンドル

- 後輪を多量に調節する場合，ハンドルをゆるめ，後輪外管を上下に調節します。

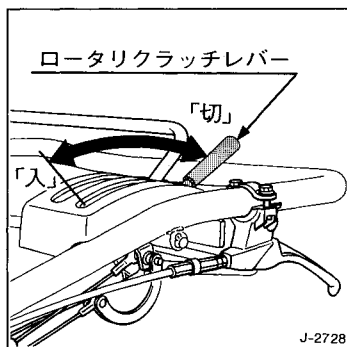
うね立機取付けハンドル

側カバー

- ロータリプラウ，ラセンスキ，うね立て爪などを取付け，耕うん幅を60cm以上にする場合は，側カバーを外して使用してください。

カバーの位置	作業の種類	耕うん爪の向き
上げる	荒起し 畝立て耕うん	外向き
下げる	内盛り耕うん 代かき	内向き

J-2757

ロータリクラッチレバー

- ロータリクラッチレバーが**“入”**に入っているときはけん制装置の作用により，主変速レバーは**“後進”**に入りません。
- 主変速レバーが**“後進”**に入っているときもロータリクラッチレバーは**“入”**に入りません。
- 爪軸回転数は，副チェーンケースの前後入換えで２段変速となります。

爪軸と耕うん爪の取付け方

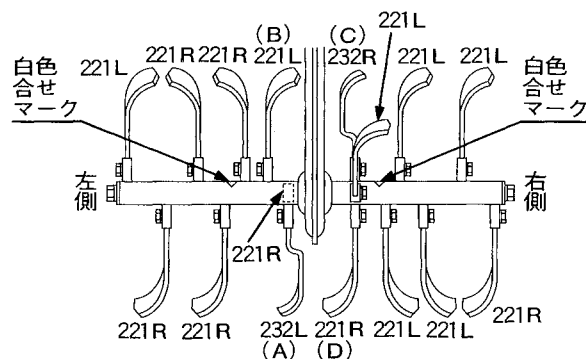
注　意

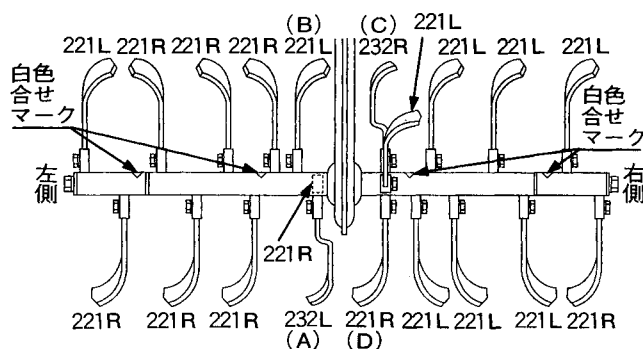
＊耕うん爪関係の取付けはエンジン停止後行なってください。
＊取外し・取付けは，平たんな場所で行なってください。

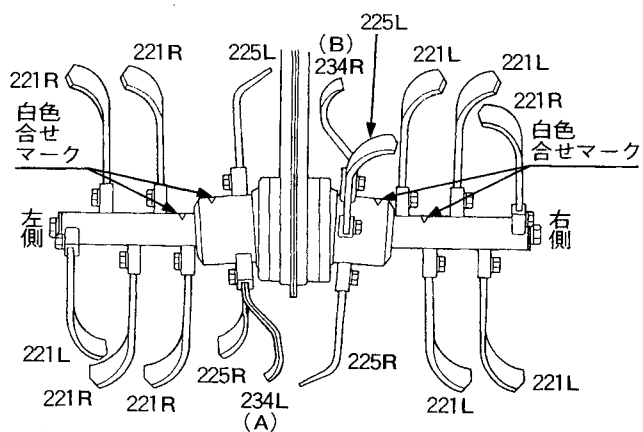
重　要

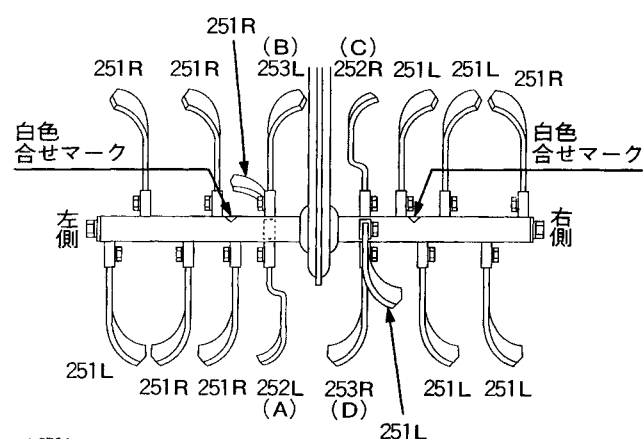
＊爪軸ブラケットと耕うん爪の番号を合せ，間違いのないように取付けてください。
＊爪軸は，左右の合せマーク(白色)が一列になるように組付けてください。
＊図中の(A)(B)(C)(D)及び(左)(右)印は爪ブラケットの刻印位置を示します。

標準ロータリ　耕幅60cmのとき

◆平面耕うん・畝立て，畝くずし作業の場合

D標準ロータリ・延長爪軸(オプション)使用時
耕幅80cmのとき

◆平面耕うん・畝立て，畝くずし作業の場合

フルカットロータリ　耕幅60cmのとき

◆平面耕うん・畝立て，畝くずし作業の場合

Y仕様ロータリ　耕幅60cmのとき

◆平面耕うん・畝立て，畝くずし作業の場合

作業前にこれだけチェック　●作業前の点検について

警　告

＊給油中はエンジン停止・火気厳禁。くわえ煙草での給油はしないでください。
＊燃料がこぼれたときはきれいにふき取ってください。
＊前スタンドを立て機械を安定させて点検てください。
＊点検時はエンジンを停止してください。
＊燃料が規定量以上に給油されていないか確認してください。

●調子良く作業するために

燃　料

→ディーゼル軽油を補給します。ディーゼル軽油には右表の種類があります。地域・季節に見合ったものを使用してください。
流動点付近以下の温度になると燃料の流動性が悪くなり，始動が困難になります。

種　類	ディーゼル軽油の流動点(℃)
特1号	＋5以上
1　号	0及び－5
2　号	－10
3　号	－15及び－20
特3号	－25及び－30

→タンク容量……約4.5Ｌ
→燃料のエアー抜きは不要です。エアーは自動的に抜けます。

重　要

＊燃料中にゴミや砂が混入していると，燃料噴射ポンプが作動不良になりますので，注意してください。
＊燃料キャップが締まっているか確認してください。

エンジンオイル

→エンジンを水平にして，レベルゲージで規定量あるか点検します。
→不足している場合は，クボタ純オイルを補充します。
（ディーゼルエンジン用：D10W-30）
→オイル量……OC62-T1：1.3Ｌ

エアクリーナ用オイル

→オイルパンの規定線まであるか点検します。
→不足している場合は，エンジンオイルを補充します。

ミッションオイル

→スタンドを立てた状態で，検油口まであるか点検します。
→不足している場合は，クボタ純オイルを補充します。(M80B又はM90)
→オイル量……6.2L

ロータリケースオイル

→スタンドを立てた状態で，検油口まであるか点検します。
→不足している場合は，クボタ純オイルを補充します。(M80B又はM90)
→オイル量……2.2L

各ケーブル

→ケーブル注油部より，エンジンオイルを注油します。

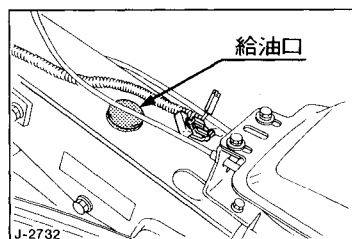
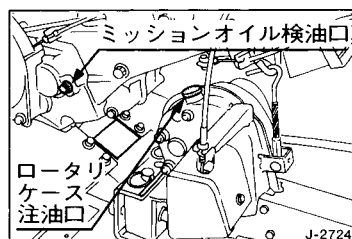
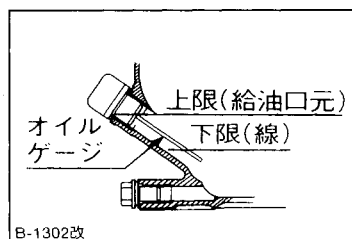
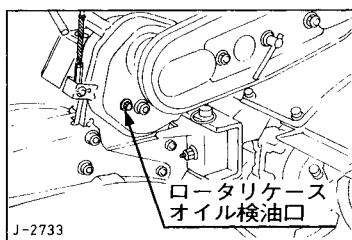
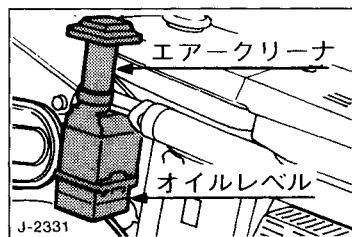
主クラッチ　操向クラッチ　ロータリクラッチ

→クラッチの“**入**”“**切**”が確実に行なえるか点検します。
→不良の場合は調整します。

ロータリ

→耕うん爪取付ボルトのゆるみがないか点検します。

その他

→エンジン，ミッション・ロータリケースなどから油もれがないか点検します。
→各しゅう動部へエンジンオイルを注油します。
→各部の損傷及びボルト・ナットのゆるみがないか点検します。

ミッションオイル給油口
給油口
J-2732
注油
主クラッチケーブル
バックけん制ケーブル
ロータリクラッチケーブル
操向クラッチケーブル(左右)
駐車ブレーキケーブル
ロータリケースオイル給油口
ミッションオイル検油口
ミッションオイル検油口
ロータリケース注油口
J-2724
エンジンオイル点検・給油口
上限(給油口元)
下限(線)
オイルゲージ
B-1302改
J-2754
燃料給油口
ロータリケースオイル検油口
ロータリケースオイル検油口
J-2733
エアークリーナ
エアークリーナ
オイルレベル
J-2331
J-2757
注油(スタンドケーブル)

タイヤ空気圧

→空気が抜けていないか，又，損傷がないか点検します。
→適正空気圧……120kPa(1.2kgf/㎠)

警告

＊タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を，必ず守ってください。空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり，死傷事故を引き起こす原因になります。
＊タイヤに傷があり，その傷がコード(糸)に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
＊タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。(特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。)

主クラッチ

→補助主クラッチの**“切”**が確実に行なえるか点検します。
→不良の場合は調整・注油します。

けん制装置

→ロータリバックけん制が確実に作動するか点検します。
→トレーラ以外の作業では高速(前進6速)けん制が**“入”**になっているか点検します。

電気配線 ヒューズ

→被覆が溶けたり被れていないか，また配線がはさまれていないか，クランプがゆるんでいないか点検します。
→ヒューズの代わりに針金などを使用せず，ヒューズは規定ヒューズを使用します。

エンジン周辺部

→ファンカバーやマフラカバー内にゴミやワラクズの付着がないか点検します。

燃料漏れ

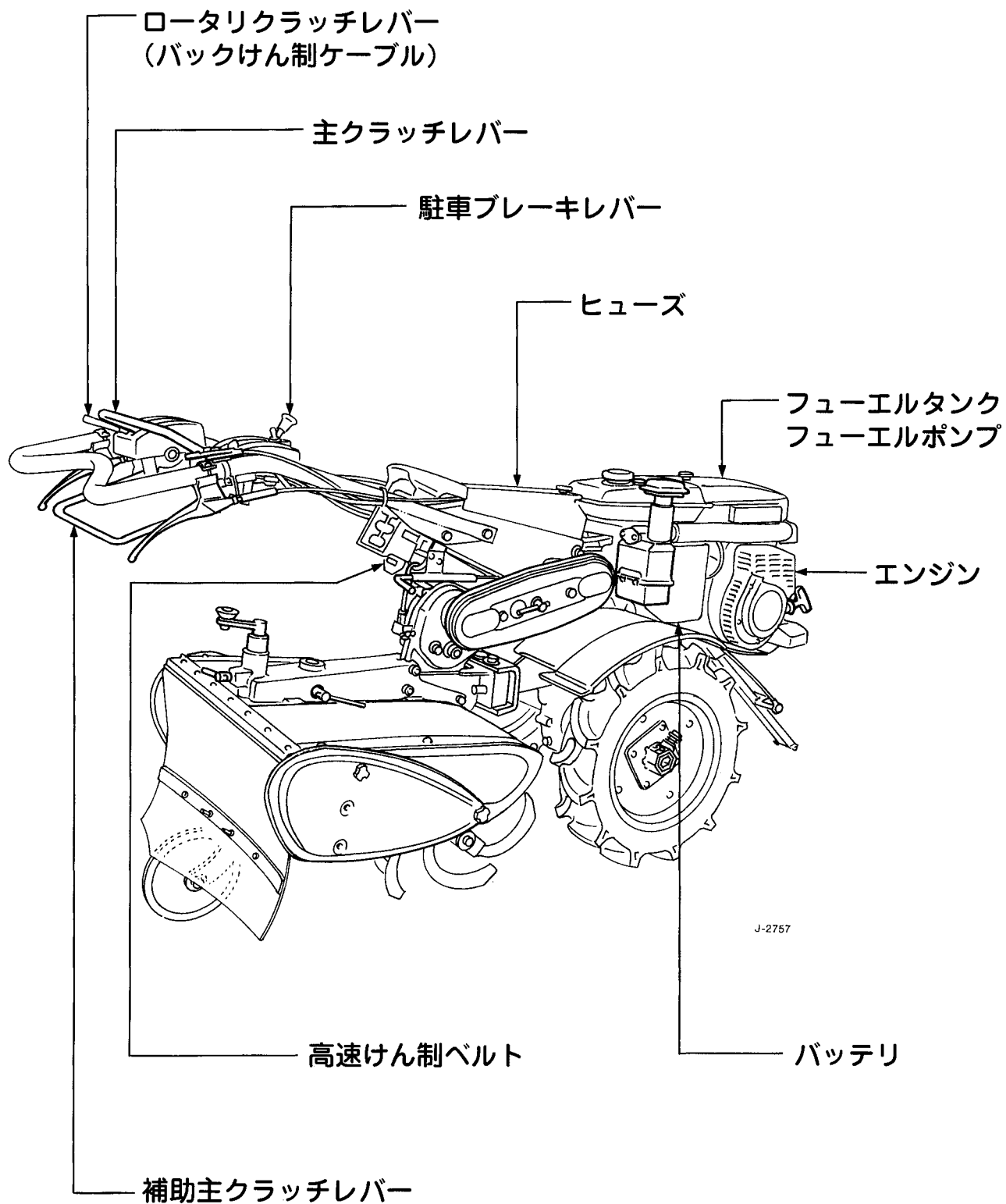
→タンクやフューエルパイプから燃料漏れがないか点検します。
→タンク容量……約4.5L(赤ゲージ位置)以上入れないようにします。

ブレーキ

→駐車ブレーキ**“入”**で確実に停止するか点検します。

バッテリ

→ターミナル端子がゆるんでいないか点検します。

ロータリクラッチレバー
（バックけん制ケーブル）
主クラッチレバー
駐車ブレーキレバー
ヒューズ
フューエルタンク
フューエルポンプ
エンジン
J-2757
高速けん制ベルト
バッテリ
補助主クラッチレバー

このように運転します ●上手な運転のしかた

ならし運転（最初の10時間程度使用まで）

この期間中は各部になじみをつけるため，エンジンを高速回転させたり，過酷な使用は避け，無理をさせないようにしましょう。

エンジンの始動のしかた

注 意

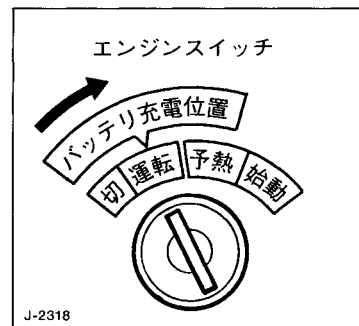
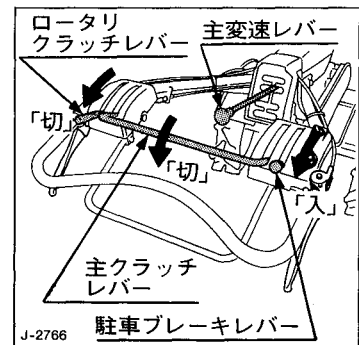
＊エンジンを始動するときは，主クラッチレバーを必ず，“切”にしてください。

＊マフラの排気方向に，燃えやすいものがないか確認してください。

＊エンジン運転中，マフラに手を触れないでください。

セルスタータ始動のとき

❶駐車ブレーキレバーを“**入**”にします。
❷主クラッチレバーを“**切**”にします。
❸主変速レバーは“**中立**”，ロータリクラッチレバーは“**切**”にします。
❹アクセルレバーを“**高速側**”にします。

❺エンジンスイッチにキーを差込み“**入**”の位置にします。
❻エンジンスイッチを“**予熱**”位置に保持し，エンジンを予熱します。（5秒間）
●エンジンが暖まっているときは不要です。
❼エンジンスイッチを“**始動**”位置まで回し，エンジンを始動します。
❽エンジンが始動したところで，エンジンスイッチから手を離してください。エンジンスイッチは自動的に“**入**”位置に戻ります。
❾2～3分暖機運転を行なってから，作業を始めてください。

重 要

＊10秒間セルモータを回しても始動しない場合は，30秒休んでから再始動してください。
＊バッテリの放電によりエンジンが始動しにくい場合は，デコンプレバーを併用して，始動してください。
＊エンジン始動後，エンジンスイッチは必ず“**入**”の位置にしておいてください。
＊バッテリが完全に放電し，セルスタータで始動不能になった場合は，リコイルスタータで始動してください。

⚠ 注 意

＊リコイルスタータの引張る方向に人がいないか，突起物・障害物がないか確かめてから始動してください。

＊エンジン始動時は，必ずデコンプレバーを上げてください。
（リコイル始動❼項参照）
デコンプレバーを上げずに始動操作すると，始動が困難なばかりでなく，リコイルスタータのロープ切れの原因になります。又，手に衝撃を受け危険です。

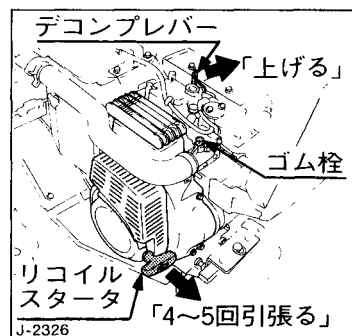
＊始動後，異音がしたり，エアークリーナから煙が出たりした場合は，エンジンが逆転している恐れがあり危険ですので，すぐにエンジンを停止してください。

リコイル始動のとき

（バッテリが放電したときはリコイル始動ができます。しかし外気温度が10℃以下では始動困難ですので，バッテリを充電しセル始動してください。）

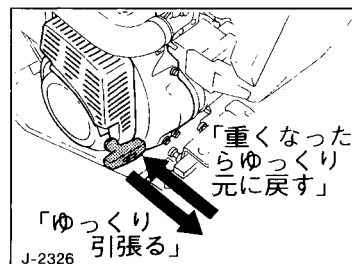
❶～❹は セルスタータ始動 と同じ手順で行なってください。

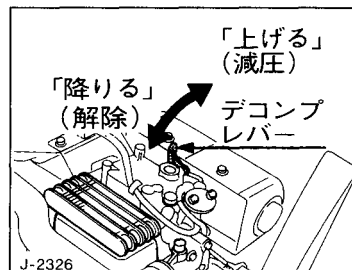
❺噴射音を確認します。

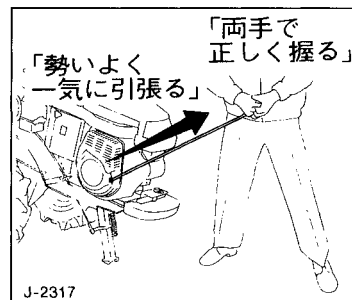
1. デコンプレバーを上げ圧縮を抜いた状態で，片手でリコイルスタータのロープを4～5回引張って，エンジンを空回ししてください。
2. ビリ！ビリ！をいう燃料噴射音が確認できたら，❻に進みます。
3. もし音がしない場合は，燃料タンクの残量及びアクセルレバー位置を，再確認してください。

重 要

＊始動を容易にするため外気温度が10℃近くのときは，空回しをする前に吸気フランジ部のゴム栓を抜き，きれいなエンジンオイルを2～3c.c.注入してください。
注入量が多すぎると白煙が多量に出るばかりでなく，かえって始動しにくくなります。注入後，必ずゴム栓を元どおり差込んでください。

❻エンジンを圧縮位置にします。

1. デコンプレバーから手を離し，リコイルスタータのロープをゆっくり引張ってください。
2. ロープが重くなったら圧縮位置です。引張るのをやめてゆっくり元に戻します。

❼デコンプレバーを上げます。（減圧）

1. 手を離してもデコンプレバーが降りないことを確認してください。
2. もしデコンプレバーが降りてしまうときは，❻の操作を再度行なってください。
（このデコンプ装置はオートリターン式です。リコイルスタータのロープを引くと自動復帰して，減圧が解除（デコンプが降りる）されます。）

❽エンジンを始動させます。

1. デコンプレバーは上がっていますか。
2. リコイルスタータのハンドルを両手で正しく握ってください。
3. ロープを勢いよく長め（1.2m以上）に引張れば，エンジンが始動します。
勢いよく一気に引張るのが始動を容易にするコツです。
4. エンジンが始動しなかったときは，再度❻から繰返してください。

停止のしかた

注 意

＊エンジン停止直後は，マフラが熱くなっていますから，手を触れないようにしてください。

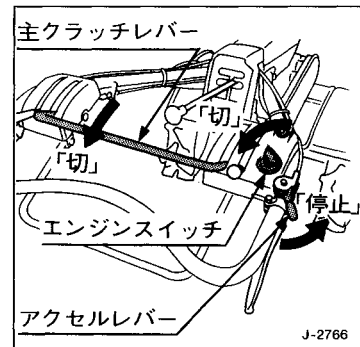
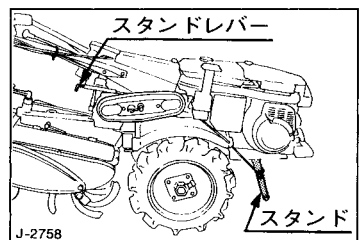
❶主クラッチレバーを**"切"**にします。
❷アクセルレバーを**"停止"**にすると，エンジンが停止します。
❸エンジンスイッチを**"切"**にします。

重 要

＊デコンプレバーでのエンジン停止は絶対行なわないでください。

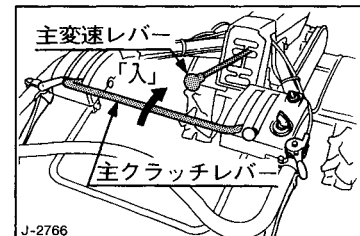
発進のしかた

警 告

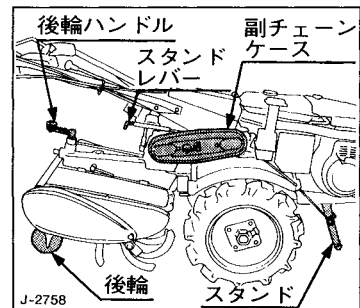
＊特に後進するときは，ハンドルが持ち上がるので，主クラッチの接続はゆっくり行なってください。
＊確実にケンセイが作動するか確認してください。
＊ロータ装着時後進禁止。

❶スタンドレバーを引き，スタンドを上げます。

❷主変速レバーを希望の変速位置に入れます。
❸主クラッチレバーを**"入"**にすると発進します。
主クラッチレバーはゆっくり操作してください。

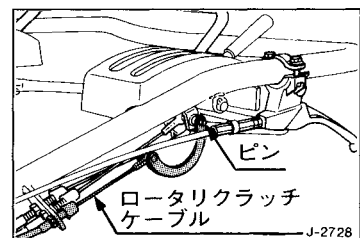
ロータリの着脱のしかた

注 意

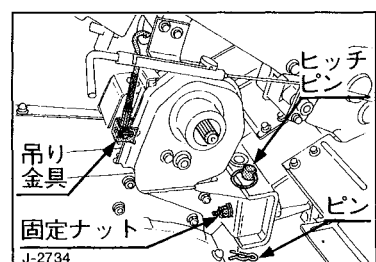
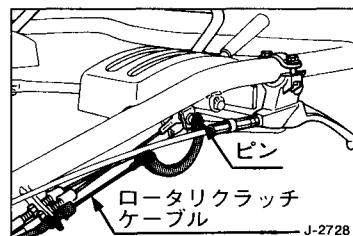
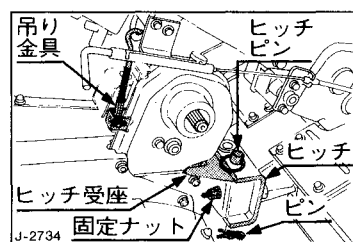
＊取外し・取付けは，平たんな場所で行なってください。
＊ロータリを取外したあとは，本機接合部(PTO部)にキャップを取付けておいてください。

■ロータリの外し方

❶スタンドを立て機体を安定させます。
❷耕うん爪を地面に接地させたとき，後輪が5～8㎝浮くように後輪ハンドルで調整します。
❸副チェーンケースを取外します。
❹ロータリクラッチケーブルをハンドル側で取外します。

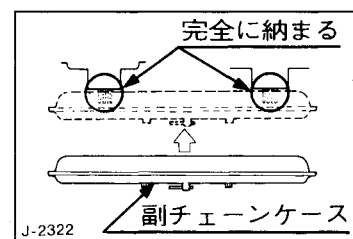
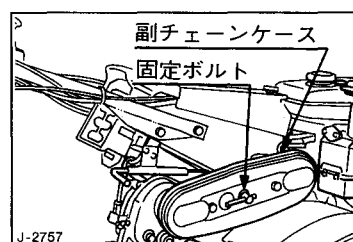
重 要

＊外したピンはケーブル側に取付けておいてください。

❺ロータリ固定ナットをゆるめ(5～6回)ヒッチピンを抜きます。
❻ハンドルを下げ，吊り金具を外してロータリを後方に引いてください。
(本機を前方に押し出してもよい。)

重 要

＊吊り金具を外すとハンドルが上がります。

■ロータリの取付け方

❶ロータリのヒッチ受座をなるべく水平にします。
❷ロータリ吊り金具をハンドル下方に引掛け，ロータリのヒッチ受座と本機のヒッチを合せます。
❸機体を前に倒し，ヒッチとヒッチ受座の穴を合せヒッチピンを差込みβピンを入れます。
❹ロータリクラッチケーブルを取付けます。

❺副チェーンケースを取付けます。

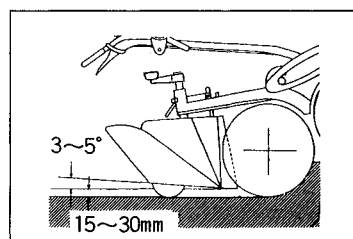
重　要

＊スプラインが合いにくいときはロータリクラッチレバーを**“入”**に入れ，爪軸を手で回して合せてください。
＊副チェーンケースが**“本機”**・**“ロータリ”**におさまりきらないときは，ロータリケースの締付けボルトをゆるめてインローを合せてください。
＊ロータリクラッチレバーを**“切”**に戻してください。

❻ロータリ固定ナットを締付けてください。

重　要

＊取付後はロータリクラッチが**“切”**・**“入”**に確実に入るか確認してください。

うね立機の調節

うね立て作業においてゴム車輪，大径鉄車輪などによる取付け角度，取付け位置及び高さの調節は図のとおり行なってください。

こんなときどうする？　●簡単な手入れと処置

警　告

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは
＊機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊廃油，燃料，冷却水(不凍液)，冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。

注　意

＊給排油・点検・調節・清掃はエンジンを停止して行なってください。
＊前スタンドを立て機械を安定させて行なってください。

エンジンオイルの交換

注　意

＊エンジン停止後は，しばらくの間エンジンが熱いので，手を触れないでください。

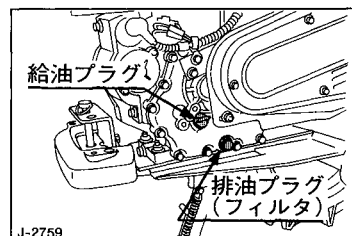
■排油のしかた

前スタンドを立てて，給油プラグを外し，そのあと排油プラグ(オイルフィルタ)を取外し，排出してください。

■フィルタの清掃

オイルフィルタを軽油で洗浄してください。

■給油のしかた

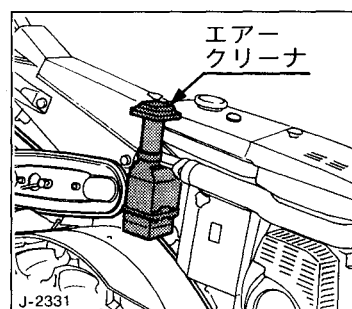
エンジンを水平になる状態にし，給油口の口元まで入れてください。

交換		オイル量	オイルの種類
第1回目	以後		
25時間使用後	100時間使用ごと	1.3L	ディーゼルエンジンオイル クボタ純オイル(D10W-30) 又はCC級以上のオイル

季節	温度	オイル
夏	20℃以上	SAE30
春・秋	5～20℃	SAE20
冬	5℃以下	SAE10W又は10W-30

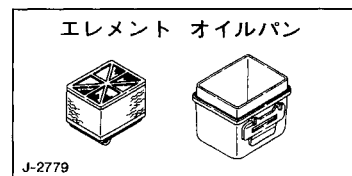
エアークリーナエレメントの清掃

(1)エレメントを取外し，白灯油で洗い，エレメントの白灯油を振切って取付けてください。

(2)オイルパンはよく洗浄し，新しいエンジンオイルを規定量入れてください。

●規定量…OIL LEVELと記載されているところ

重　要

＊汚れたまま使用しますと，エンジンの出力低下や故障の原因になります。

エレメント(オイル)	清掃	通常	50時間ごと
		ホコリの多い場合	毎日
	交換	汚れがひどいとき	

燃料フィルタの清掃

(1)燃料フィルタは，良質の高級ろ紙からなっており，ごく小さいゴミもろ紙の表面に付着するので，100時間運転ごとにネジをゆるめて取外し，新しい燃料の中ですすぎ洗いしてください。
(2)燃料フィルタの取外しは，燃料タンクの燃料を全部抜きとった後行なってください。

重　要

＊燃料フィルタに穴をあけたときは，新品と取換えてください。

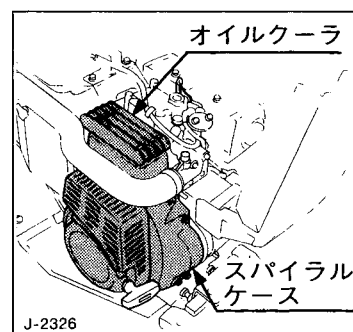
穴をあけたままではゴミが入り，インジェクションポンプやノズルの寿命を短くします。

100時間使用ごと	フィルタの清掃
300時間使用ごと	タンクの清掃

オイルクーラの清掃

注　意

＊オイルクーラの清掃は必ずエンジンを停止して行なってください。

❶ボルト４箇所をゆるめて，スパイラルケースを取外してください。
❷シリンダフィンやオイルクーラフィンの間に，ホコリが詰まっていないか点検し，エアーガンで取除いてください。
オイルクーラフィンはやわらかいので，ドライバやヘラを使うと傷めます。使わないでください。

ミッションオイルの交換

注　意

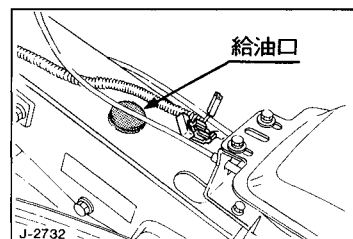
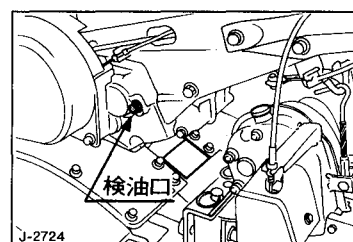
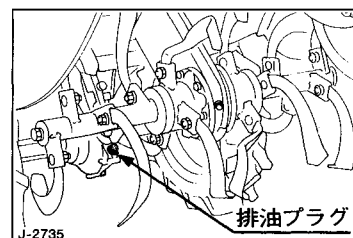
＊排油は適切な処理をしてください。

■排油のしかた

排油プラグを取外し，排油してください。

■給油のしかた

前スタンドを立てた状態で給油プラグを外し，検油口から油があふれるまで給油してください。

交　換		オイル量	オイルの種類
第１回目	以　後		
50 時 間 使 用 後	100時間毎	6.2L	クボタ純オイル M90又はM80B

主クラッチケーブルの調節

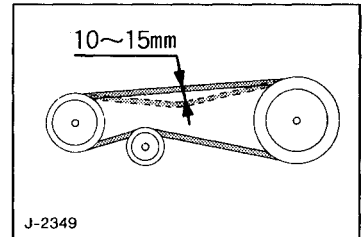
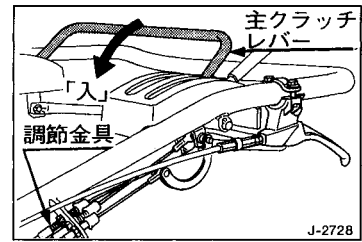
注　意

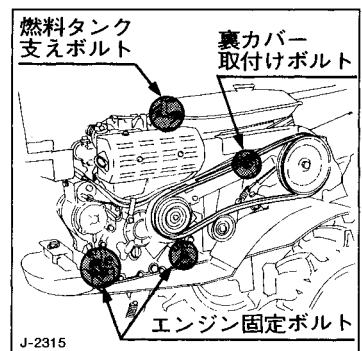
＊ベルト調節を行なう場合は，必ずエンジンを停止して行なってください。
＊調節が終ったら必ずベルトカバーを取付けてください。

注　意

＊エンジンを始動する前に，主変速レバーを“中立”，ロータリクラッチレバーを“切”にし，スタンドが出ていることを確認してください。
＊エンジンが回っているときは危険ですので付近に近よらないでください。

■クラッチケーブルによる調節

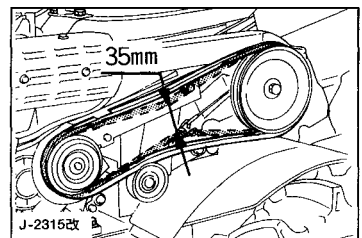
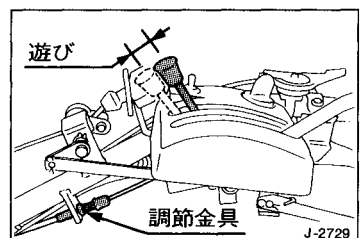
主クラッチレバーを入れた状態でベルトの中央部を指で押えて10～15㎜たわむ程度にケーブル調節金具でテンションプーリを調節してください。
なお，使用初期はベルトが伸びやすいため，10時間使用後ケーブルを再調節してください。

■エンジン前後による調節

ベルトが伸びたり，又は新しいベルトに取換えたとき，主クラッチケーブルで主クラッチの調節ができない場合は，エンジンを前後に移動調整します。
エンジン固定ボルト４本と，燃料タンク支えボルト，エアークリーナ支えボルト，裏カバー取付けボルトをゆるめて調節し，調節後は確実にボルトを締付けてください。

重　要

＊主クラッチケーブルを調節した場合，エンジンを始動してクラッチの“入”・“切”が確実に作動するか確認してください。

新しいベルトに交換する場合

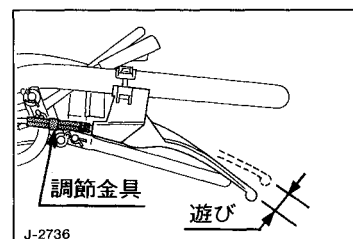
新しいベルトに交換する場合は，ベルト中央部を指ではさんですき間を約35㎜ぐらいにして，エンジン固定ボルトを締付けてください。

駐車ブレーキの調節

ブレーキがききにくい場合は，調節金具でブレーキが確実にきくように調節します。
調節後は，調節金具のロックナットを確実に締付けてください。

操向クラッチの調節

操向クラッチレバーを握っても操向クラッチが切れにくい場合，又操向クラッチレバーを放しても入りにくい場合は，調節金具で調節します。

操向クラッチ	調節金具
切れにくい場合	長くする
入りにくい場合	短くする

調節後は，調節金具のロックナットを確実に締付けてください。

タイヤ空気圧

空気圧が高すぎても低すぎても，タイヤの寿命を縮めますから，定期的に空気圧を調べ，適正になるように調節してください。

適正空気圧	120kPa(1.2kgf/㎠)

空気を入れるには，エアーコンプレッサ，又は自動車などのタイヤに空気を入れる高圧手押しポンプを用いてください。

警告

＊タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を，必ず守ってください。空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり，死傷事故を引き起こす原因になります。

＊タイヤに傷があり，その傷がコード(糸)に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。

＊タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）

高圧洗車機の使用方法を誤ると人を怪我させたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

注意

＊機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，2m以上離して洗車してください。もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，

1. 電気配線部被覆の損傷・断線により，火災を引き起こすおそれがあります。

2. 油圧ホースの破損により，高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。

3. 機械の破損・損傷・故障の原因になります。

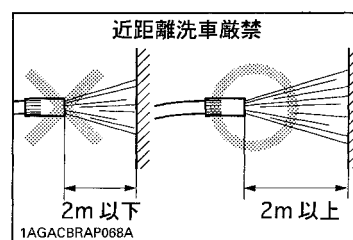
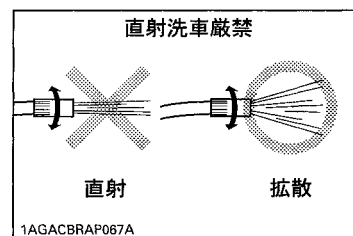
例)(1)シール・ラベルの剥がれ

(2)電子部品，エンジン・トランスミッション室内等への浸入による故障

(3)タイヤ，オイルシール等のゴム類，樹脂類，ガラス等の破損

(4)塗装，メッキ面の皮膜剥がれ

バッテリ

危　険

バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの２種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下の事を守ってください。

＊バッテリには液面がLOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐにUPPER LEVEL とLOWER LEVEL の間に補水してください。

注　意

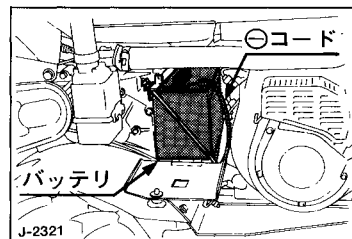
＊バッテリの点検及び取外し時にはエンジンを停止し，エンジンスイッチを"切"にしてください。

＊バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。
（バッテリ液は希硫酸ですので，ヤケドをしたり衣服に穴が開いたりすることがあります）。
もし，身体や衣服に付いたときは，すぐ水洗いしてください。

＊バッテリに火気を近づけたり，ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

■バッテリの取付け，取外し

❶バッテリを取外すときは，バッテリ⊖コードを外し，その後バッテリ側で⊕コードを外してください。（⊕側から外すと，工具などが接触したときにショートすることがあります。）

❷取り付けるときは，必ず⊕側から取付けます。

バッテリ型式	34A19L-MF（ユアサ製）	容量（5HR）24Ah

重　要

＊端子の締付けは確実にしてください。又端子が錆びないよう，端子にはグリースを塗布しておいてください。

＊バッテリを再度取付けるときにはバッテリの⊕，⊖コードを元どおりに配線し，まわりに接触しないよう締付けてください。

＊バッテリの⊕ターミナルには，ゴムブーツを必ず取付けてください。

■電解液について

電解液が液面線中にあるか点検し，不足しているときは精製水を補充して常に規定量に保ってください。

■補充電のしかた

(1)バッテリの充電は必ず本体から取外して行なってください。
取付けたままで充電すると，電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。

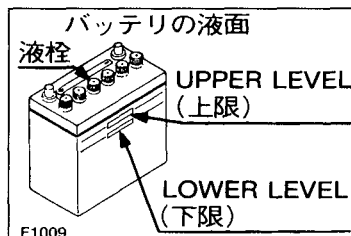
(2)充電はバッテリの⊕を充電器の⊕に，バッテリの⊖を充電器の⊖に接続して行ないます。
（充電器の取扱書を十分お読みになって行なってください。）

重　要

＊急速充電はできるだけ避けてください。
バッテリの寿命が短くなります。

■保存中の注意

(1)テーラーを長期間使用しない場合は，バッテリをテーラーから外して充電し，液面を正しく調整してから，日光の当らない乾燥したところに保存してください。

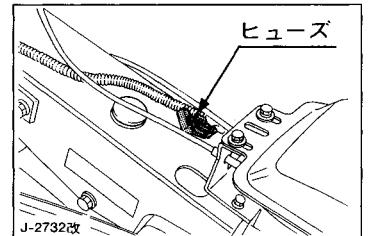
(2)バッテリは，保存中でも自己放電しますから，夏は１ヵ月に１度，冬は２ヵ月に１度補充電をしてください。

電気配線及びヒューズ

 注 意

＊ワイヤハーネス及びバッテリ⊕コードが損傷していると，火災のおそれがあるので必ず点検してください。
＊バッテリ，配線及びマフラやエンジン周辺部にワラクズ，ゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因となるので毎日作業前に点検してください。

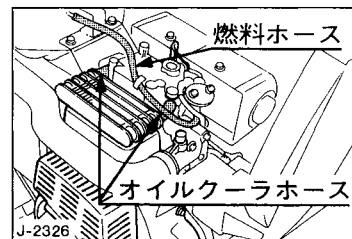
(1)配線のターミナル(端子)部のゆるみは接続不良になり，また配線が損傷していると電気部品の性能を損なうだけでなくショート(短絡)，漏電又は焼損など思わぬ事故になることがあります。
傷んだ配線は早めに交換・修理してください。
(2)ヒューズが切れると，電装関係が作動しなくなる上に，バッテリへ充電しなくなります。

■ヒューズの交換

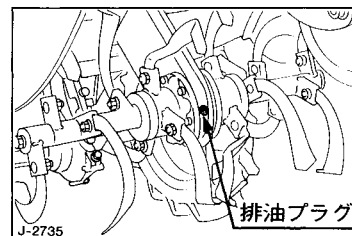
❶ハンドルカバーを外します。
❷ワイヤハーネス部のヒューズホルダ内のヒューズを交換してください。
(規定ヒューズ：15A)

重 要

＊ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などを使用せず，購入先で点検を受けてください。

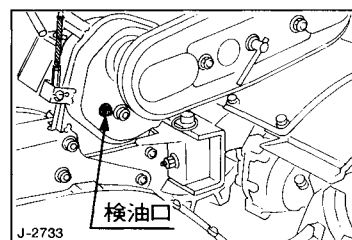
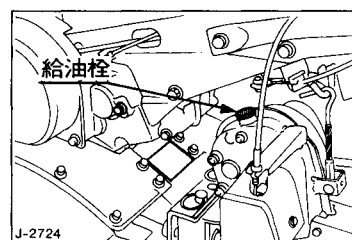
ゴムホースの交換

燃料ホース及びオイルクーラホースは，２年ごとに交換してください。２年以内でも点検時に漏れなどあるときは，すぐに交換してください。

ロータリケースのオイル交換

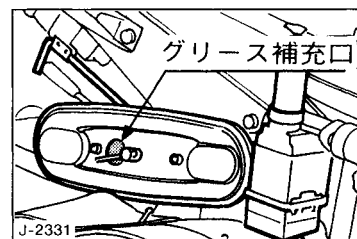
■排油のしかた

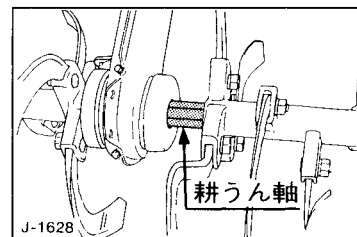
排油プラグを取外し，排油してください。

■給油のしかた

前スタンドを立てた状態で給油栓を外し，検油口から油があふれるまで給油してください。

交換		オイル量	オイルの種類
第１回目	以　後		
50時間使用後	100時間毎	2.2L	クボタ純オイル M90又はM80B

副チェーンケースのグリース補充

グリース補充口より良質グリースを適量補充してください。

50時間ごと	クボタチェーングリース 又は良質グリースを適量

耕うん軸へのグリース塗布

耕うん軸にグリース又はオイルを塗布しておくと，爪軸の着脱が楽になります。

バックけん制装置の調節

 警　告

＊バックけん制装置の解除は行なわないこと。

 注　意

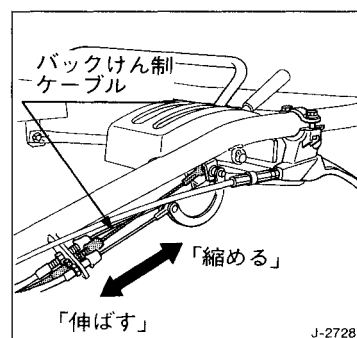
＊調節後は，調節金具のロックナットを確実に締付けてください。

＊調節が終ったら，主変速レバーを“中立”，ロータリクラッチレバーを“切”に戻してください。

ロータリクラッチレバーと主変速(後進)に安全装置をもうけてあります。

＊ロータリクラッチレバーが“**入**”のときは，主変速レバーは“**後進**”に入りません。

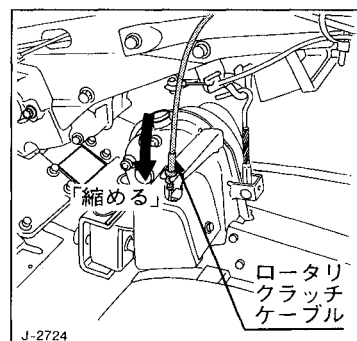
＊主変速レバーが“**後進**”に入っているときは，ロータリクラッチレバーは“**入**”に入りません。

上記の作用が不十分な場合は，バックけん制ケーブルの長さを調節してください。

現　　象	処　　置
(1)主変速レバーが“**後進**”に入っているのにロータリクラッチレバーが“**入**”に入る場合。 (2)ロータリクラッチレバーが“**入**”に入っているのに主変速レバーが“**後進**”に入る場合。	バックけん制ケーブルの調節金具を伸ばす方向に調節してください。
(1)主変速レバーが“**後進**”に入っていないのにけん制が働いてロータリクラッチが入らない場合。 (2)ロータリクラッチレバーが“**切**”なのにけん制が働いて主変速レバーが“**後進**”に入らない場合。	バックけん制ケーブルの調節金具を縮める方向に調節してください。

ロータリクラッチケーブルの調節

❶エンジン始動後，主変速レバーの“**中立**”を確認し，主クラッチレバーを“**入**”にします。

❷ロータリクラッチレバーにより，ロータリ爪軸の回転・停止が確実に行なえるか点検します。

❸もし，ロータリクラッチレバーが“**切**”の時に爪軸が回転するようなら，ケーブル調節金具を縮める方向に調節します。

長い間使わないときは？　●長期格納時の手入れ

使用後の手入れ

(1)使用後は，必ずその日のうちに清掃を行ない，各部に付いている土やゴミを落とし，各しゅう動部はさびないよう油を塗布してください。
(2)特にファンカバー内にゴミが詰まりますと，エンジンの焼付きなどの原因になりますので，よく点検・清掃を行なってください。

保　管

使用後の清掃と同じく，
❶各部に付着している泥やゴミを水で洗い落とし，
❷各部の水分を乾いた布などで十分にぬぐい取り，
❸摩擦しゅう動部，及び塗料のはがれたところなどには，さびないように油脂を塗布してください。

(1)主クラッチレバーは**“切”**の位置にして，保管します。
(2)エンジンオイルを交換します。
(3)エアクリーナエレメントは，きれいに清掃しておきます。ゴミがこびりついて次回使用の際，清掃が困難になります。
(4)エンジンのシリンダ内に湿気が入って，始動が困難になるのを防止するため，リコイルスタータハンドルを引張って，圧縮位置で止めておきます。
(5)カバーをかけ，湿気やホコリのない場所に置いてください。
カバーはエンジンが冷えてからかけてください。
(6)バッテリのコードは，必ずアース側(⊖側)を外してください。
(始動時は忘れずに取付けてください。)

注　意

＊カバーをかけたり，納屋に格納するときは火災の危険があるため，エンジンが冷えてからにしてください。

テーラーを運搬するとき

自動車(トラック)への積込み，運搬

 注 意

＊あゆみ板は，丈夫なすべり止めのあるものを使用してください。

＊途中で，操向クラッチや主クラッチは絶対に切らないでください。

＊登りは"前進"，下りは"後進"で行なってください。

＊トラックは，荷台に天井が無い車を使用してください。

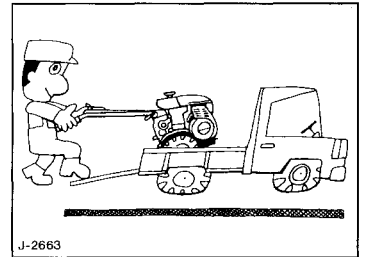
＊ロータを装着して，あゆみ板の上り，下りは危険です。絶対にしないでください。

(1)トラックを平たんな場所に止め，駐車ブレーキを掛けます。
(2)あゆみ板を荷台に確実に固定します。
(3)上り，下りは最低速で走行します。
(4)主変速レバーは，低速に入れ，また主クラッチレバーも**"入"**にしておきます。
(5)機体は荷台にロープで確実に固定します。
(6)機体にロープを掛けるときは，後ヒッチ・車輪・前スタンド・ハンドル部2ヵ所を固定してください。
(7)燃料コックレバーは**"閉"**にします。
(8)雨天時には，エアークリーナの吸込口にカバーをかぶせてください。
(9)ロータを装着している時は，タイヤと交換して行なってください。

 重 要

＊ロープを掛けるとき，変速レバーや樹脂カバー，小物部品にロープが触れないように気を付けてください。
破損したり機能が損なわれる恐れがあります。

＊エアークリーナの吸込口にカバーをかぶせないで運搬すると，雨水や砂ホコリが入りエアークリーナ性能が低下します。

J-2663

付　記

■主要諸元

商品名		TD700	
農機型式名		クボタTD700	
機体寸法	全長 mm	2050	
	全幅(ハンドル幅) mm	725	
	全高(標準位置) mm	1130	
	輪距(タイヤ中心) mm	320～620	
質量(装備) kg		単体 168	
		ロータリ付 233	
エンジン	名称	クボタOC62-E3-T1	
	種類	液冷4サイクルディーゼルエンジン(ACTV)	
	総排気量 cm³(cc)	276	
	最大出力/回転速度 kW/min⁻¹(PS/rpm)	4.6/1800(6.2/1800)	
	使用燃料	ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量 L	4.5	
	始動方式	セルスタータ・リコイルスタータ	
点灯装置		12V/20W	
主クラッチ方式		ベルトテンション	
補助停止クラッチ		あり	
操向クラッチ方式		爪クラッチ	
制動方式		内部拡張式(駐車ブレーキ)	
タイヤ		5-12	
変速段数	主変速 前進	6段(前進6速けん制装置付)	
	主変速 後進	2段	
車軸形状径 mm		34(六角対辺31)	
PTO回転数 min⁻¹(rpm)		432	
ロータリ	駆動方式	センタドライブ	
		標準	フルカット式
	耕幅(mm)	600	600

■走行速度一覧表

	速度	車軸回転数min⁻¹(rpm)	速度 m/min(km/h)	作業
前進	1速	9.2	15.8 (0.95)	ロータリ耕うん作業
	2速	11.7	20.0 (1.20)	畝立て作業
	3速	26.3	45.0 (2.70)	代かき・歩行移動
	4速	44.5	76.2 (4.57)	
	5速	57.4	98.3 (5.90)	トレーラ
	6速	128.5	220.0 (13.20)	
後進	1速	6.7	11.5 (0.69)	ほ場後進
	2速	32.8	56.2 (3.37)	トレーラ後進

■爪軸回転速度一覧表

副チェーンケース	爪軸回転数(min^{-1})
低(14×16)	199
高(16×14)	260

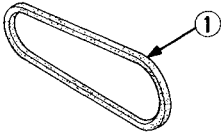
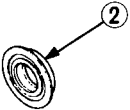
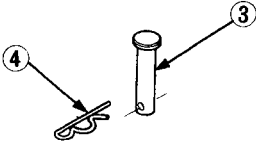
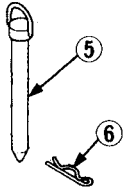
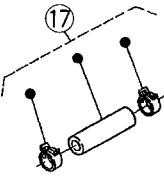
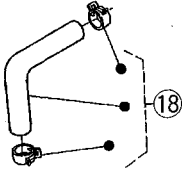
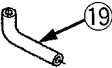
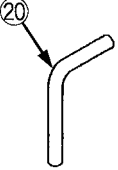
■標準付属品

品名	数量
取扱説明書	1
保証書	1
PTO軸キャップ	1(ロータリなし仕様は本機に装着)

■走行速度一覧表

品番	品名	仕様	適用機種
KK221-8411-0	ヒラプーリ(75)	エンジンプーリに取付け	全機種
KK221-8412-0	ヒラプーリ(90)		
KK221-8413-0	ヒラプーリ(100)		
KK221-8330-0	シャフトアッシ(エンジンプーリ)	Vプーリ取付け用軸 (エンジンプーリに取付け)	全機種
62301-8310-0	プーリボスアッシ	動力取出用のボス(PTO軸に取付け)	全機種
62301-8320-0	プーリボスアッシ 2		
KK216-8340-0	ウエイト,アッシ(7)	7㎏+積重ね用ボルト付き (3段積みは避けてください)	既ウエイト付仕様
KK226-8440-0	ウエイト・アッシ(12)	12㎏+積重ね用ボルト付き (3段積みは避けてください)	
62901-6603-0	ユニバーサルヒッチアッシ	板金タイプ(ヒッチピン付)	全機種
62671-5260-5	ユニバーサルヒッチアッシ	板金タイプ(ヒッチピンなし)	
KK221-8350-0	コウグアッシ(TG800・TD700)	スパナ3種,ドライバー,工具箱	全機種
KK221-8380-0	マッドガードアッシ	フェンダ用ゴムタレ	全機種(M仕様除く)
KK211-8390-0	ホイールチューブアッシ	⬡ L=228㎜	全機種
KK221-8390-0	ホイールチューブアッシ	⬡ L=243㎜	
KK221-8360-0	ホイールチューブアッシ(φ40)	φ39.3×L243㎜	
KK226-8001-0	TG800ヒョウジュンロータリ	耕幅600㎜	ロータリなし仕様
KK229-8001-0	TG800フルカットロータリ	耕幅600㎜	
92181-9821-6	Aセットツメ-2	221号 左右各7本,232号 左右各1本	ヒョウジュンロータリ
92181-9822-6	Bセットツメ-2	221号 左右各5本,234号 左右各1本, 225号 左右各2本	フルカットロータリ
63733-9620-0	ツメトリツケブヒン 1	ボルト,ナット,バネザガネ 各1個	ヒョウジュンロータリ フルカットロータリ
KK227-8420-0	ツメジク,アッシ(800エンチョウ)	耕幅800㎜ 延長爪軸・カバー・爪 一式	ヒョウジュンロータリ
KK229-8420-0	ツメジク,アッシ(800エンチョウ)	耕幅800㎜ 延長爪軸・カバー・爪 一式	フルカットロータリ
KK228-8430-0	ツメジク,アッシ(250ゴウ)	250号爪(耕うん機タイプ)・爪軸一式	ヒョウジュンロータリ

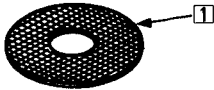
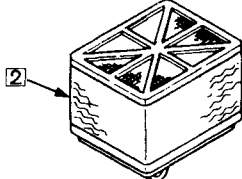
■主な消耗部品一覧表(純正部品を使いましょう)

◆本機関係

Vベルト SC51	オイルシール(車軸)	ホイールチューブピン	ヒッチピン
① X-0071	② J-2587	③④ O-0830	⑤⑥ J-2587
オイルパイプ1　アッシ	オイルパイプ2　アッシ	フューエルパイプ1	フューエルパイプ
⑰	⑱	⑲	⑳

図番	品名	品番	数量	備考
①	Vベルト　SC51	62871-6221-0	1	
②	オイルシール（車軸）	62281-1719-0	2	
③	ホイルチューブピン（長さ66㎜）	62131-1732-0	4	
④	バネピン	62131-1729-0	4	
⑤	ヒッチピン	62151-5215-0	3	
⑥	スナップピン	05515-55000	3	
⑦	ケーブル（スタンド）	KK231-4312-0	1	
⑧	ケーブル（ブレーキ）	KK221-4301-0	1	
⑨	ケーブル（ロータリクラッチ）	KK226-4413-0	1	R，F仕様
⑩	ケーブル（主クラッチ）	KK231-4224-0	1	
⑪	ケーブル（バックケンセイ）	KK226-4412-0	1	R，F仕様
⑫	ケーブル（スロットル）	KK231-4212-0	1	
⑬	ケーブル（サイドクラッチ）	KK221-4217-0	2	
⑭	15Aオートヒューズ	66416-6293-0	1	
⑮	バッテリアッシ（34A19L-MF）	KK231-5545-0	1	
⑯	ランプバルブ（G18-12V20W）	62871-5422-0	1	
⑰	オイルパイプ1　アッシ	11420-3715-0	1	
⑱	オイルパイプ2　アッシ	11420-3717-0	1	
⑲	フューエルパイプ1	62871-5474-0	1	
⑳	フューエルパイプ	09661-40340	1	

◆ロータリ関係

	品名	品番	数量	備考
標準ロータリ	耕うん爪221左	92181-1201-0	7	フルカットロータリ含む（個数各5）
	耕うん爪221右	92181-1202-0	7	
	へんけい爪222左	92181-1203-0	1	
	へんけい爪222右	92181-1204-0	1	
	耕うん爪232左	92181-1213-0	1	
	耕うん爪232右	92181-1214-0	1	
	特殊オイルシールアッシ	62252-3244-2	2	
フルカットロータリ	耕うん爪224左	92181-1205-0	1	
	耕うん爪224右	92181-1206-0	1	
	耕うん爪225左	92181-1207-0	2	
	耕うん爪225右	92181-1208-0	2	
	耕うん爪234左	92181-1215-0	1	
	耕うん爪234右	92181-1216-0	1	
	オイルシール（30467）	KK229-3245-0	2	
	オイルシール（軸付）	60741-1275-0	2	
	オイルシール（フレキシブル）	KK229-3257-0	2	

◆エンジン関係

図番	品名	品番	数量	備考
1	フューエルフィルタアッシ	11420-4301-0	1	
2	エアークリーナエレメントアッシ	11431-1108-0	1	
	アクセルケーブルアッシ	11431-5702-0	1	

トラブルと処置

■エンジンが始動しないとき

原　　因		処　　置
＊始動の手順が間違っている	➡	正しい順序で始動する。（10ページ参照）
＊フィルタポットに水やゴミが混入している。	➡	ポットを外してフィルタエレメントを清掃する。 または新しい物と交換する。
＊エアークリーナエレメントが目詰まりしている。	➡	エレメントを外して清掃する。 または新しい物と交換する。

■エンジンの回転が上がらない，不安定，出力が不足するとき

原　　因		処　　置
＊フィルタポットに水やゴミが混入している。	➡	ポットを外して清掃する。 または新しい物と交換する。
＊エアークリーナエレメントが汚れている。	➡	エレメントを外して清掃する。
＊アクセルケーブルの引張りが不足している。	➡	ケーブルのセット位置を調節する。

■エンジンが振れる，異音が発生する

原　　因		処　　置
＊エンジン取付けボルトがゆるんでいる。	➡	取付けボルトを締付ける。

上記の処置をしてもトラブルが直らないときは，お買いあげいただいた購入先にご相談ください。

KK231-6415-7最終頁

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点はまず，購入先へ　ご相談ください

おぼえのため，記入されると便利です

購入先名	担当	電話（　　）　ー
ご購入日	型式名	区分
車台番号（製造番号）	エンジン型式	エンジン番号

万一ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

クボタ機械サービス株式会社

北海道営業技術推進部	電(011)662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目1番1号
秋田営業技術推進部	電(018)845-1644	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
仙台営業技術推進部	電(022)384-5162	〒981-1221	名取市田高字原182番地の1
東京営業技術推進部	電(048)862-1588	〒338-0832	さいたま市桜区西堀5丁目2番36号
新潟営業技術推進部	電(025)285-1263	〒950-0992	新潟市上所上1丁目14番15号
金沢営業技術推進部	電(076)275-1121	〒924-0038	白山市下柏野町956-1
名古屋営業技術推進部	電(0586)24-5111	〒491-0031	一宮市観音町1番地の1
大阪営業技術推進部	電(06)6470-5860	〒661-8567	尼崎市浜1丁目1番1号
岡山営業技術推進部	電(086)279-4511	〒703-8216	岡山市宍甘275番地
米子営業技術推進部	電(0859)39-3181	〒689-3547	米子市流通町430-12
株式会社四国クボタ 営業技術課	電(087)874-8500	〒769-0102	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-3
福岡営業技術推進部	電(092)606-3725	〒811-0213	福岡市東区和白丘1丁目7番3号
熊本営業技術推進部	電(096)357-6181	〒861-4147	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-1
本社営業技術部	電(072)241-8092	〒590-0823	堺市石津北町64番地

株式会社クボタ

機械札幌事務所	電(011)662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目1番1号
機械東日本事務所	電(048)862-1121	〒338-0832	さいたま市桜区西堀5丁目2番36号
機械西日本事務所	電(06)6470-5970	〒661-8567	尼崎市浜1丁目1番1号
機械福岡事務所	電(092)606-3161	〒811-0213	福岡市東区和白丘1丁目7番3号

TD700E(R)

AK．A．9-9．3．AK

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

このラベルは、(社)日本陸用内燃機関協会の19kW未満汎用ディーゼルエンジン排ガス自主規制に適合していることを示しています。

株式会社クボタ

本　社　大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号　〒556-8601

品番 KK231-6415-7